

櫻井 城内さんは03年の衆院選に無所属で初当選の後、自民党に入党。郵政民営化に反対して、05年のいわゆる郵政選挙で自民党から「刺客」を送られて惜敗しました。その後、離党勧告処分を受けて離党。

しかし昨年8月の総選挙では無所属で出馬して見事に返り咲かれた。内も外もご存じの城内さんの目に、今の自民党はどのように映っていますか。

「やっと衆議院の過半数を超えた状態でした。それだけに党内からも「よし、頑張ろう」という意気込みが感じられました。ところが郵政選挙の後、小泉総理が「自民党をぶっ壊す」と言った言葉どおり

「行動を起こさずなら参院選の前にすべきです」(櫻井)



ジャーナリスト
櫻井よしこ
SAKURAI Yoshiko

衆院議員
城内実
KIUCHI Minoru

になってしまった。

櫻井 私は小泉氏が毎年靖国神社を参拝したことは評価します。小銭をチャリンと投げ入れるような参拝の作法は、英霊に対して大変失礼だったと思います。しかしそれでも中国に対して毅然とした態度をとり続け、6回靖国神社に参拝した。ただ、内政に関してはことごとく失敗して、道路公団の改革などは国民に対する詐欺だと言っていると思っています。

城内 私も同感です。作法に不満はありますが、小泉氏が靖国神社を参拝したことは評価しています。しかし、行き過ぎた改革によって地方は疲弊し、多くの古きよき自民党の大切なものを壊してしまっただ。次の安倍総理はよく頑張った。

ったと思いますが、それ以降の総理はどんどん元気がなくなっていました。

櫻井 安倍氏は防衛庁を防衛省に格上げし、教育基本法の改正、公務員制度改革も国会を延長して最後に成立させた。でも、官僚の抵抗が計算できていなかったために潰れてしまった。続く福田政権は中国寄りのシフトで、当時の日本のあるべき姿からすると方向違いでした。自民党を支える人たちも福田政権に失望し、案の定1年しかもたなかった。後を受けた麻生さんはメディアの報道姿勢があまりにも揚げ足取りが多くて気の毒でしたが、やろうと思えばできたはずの集団的自衛権に踏み込むことはしなかった。3人が続けて期待に沿えなかったこと

自民党を支持してきた保守層は、リベラル派が主流の民主党政権に戸惑いを感じているが、肝心の自民党は内輪もめをしている有り様である。ジャーナリストの櫻井よしこ氏と衆院議員の城内実氏が、自民党の崩壊と保守再生をテーマに語り合った。

小異を捨てて 保守再生救国連合を

結成せよ！

とが、自民党が国民に見放された原因だと思っています。

城内 そうですね。保守であるはずの政党が、保守でなくなつてしまった。これまで自民党を支えてきた層は、中小企業の経営者や日本医師会、全国郵便局長会、農業者の団体などです。こうした方々が、ことごとく裏切られたと思っている。とくに地方の人たちの失望感は大い。

櫻井 中小企業は日本の雇用の7割を支えています。彼らは本当に健全な保守です。自分のことは国に頼らずきちんと自分でやります。責任も果たすし義務も果たす。その結果として国民生活の安寧、自由は担保されるという考え方の人たちですね。

城内 地元の山間地域を歩いていると、神様仏様を敬い、ご先祖様、皇室を大事にし、誇りに思っている人たちがすごく多いんです。故郷を愛し、国を愛し、家族の絆を大切に。これらは難しいイデオ

ロギーではなくて、当たり前のことです。言葉で言うとは敬神崇祖尊皇愛国、それが保守なんじゃないかと思つていま

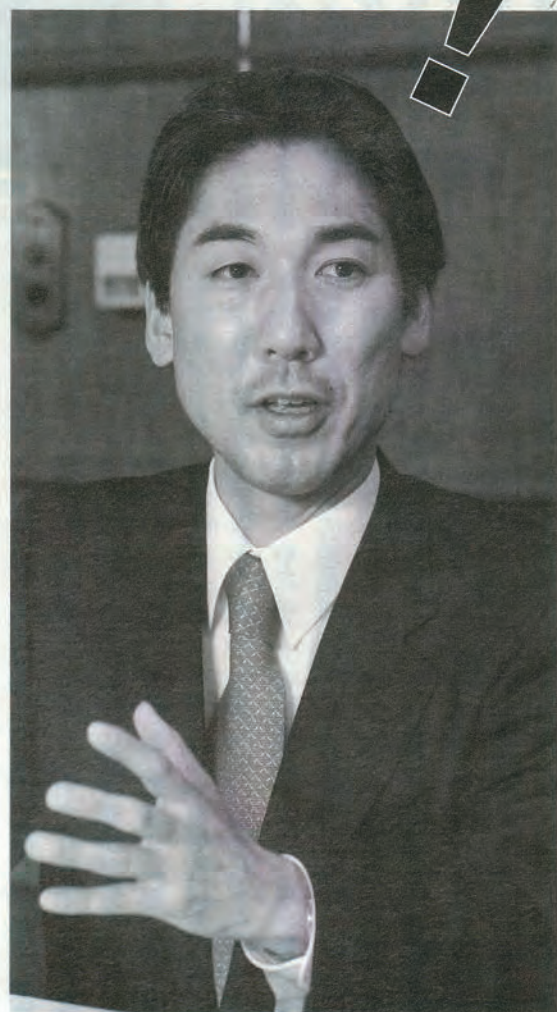
す。櫻井さんは保守政党をどう定義づけられていますか？

櫻井 ひと言で言うのは難しいですが、日本国が何故に日本であるのか、日本人が何故に日本人なのかという問いかけにきちんと答えられること

だと思っています。具体的に言えば、伝統や日本文化を生活の根底に置き、自立国家の基盤を整えるために現行憲法を改正し、集団的自衛権を認める。皇室問題にもきっちり取り組む。当然、靖国神社にも参拝するのが保守政党ですね。

城内 それと、もう一つは領土。私は平沼グループを「国益と国民の生活を守る会」と名づけさせていただきました。まず国益あってこそその命です。民主党の総理大臣が命、命と言いますが、命を守る究極の手段は国防です。鳩山政権はそこに思いが至らずに、普天

「やるからには天下を取らなければいけません」(城内)



間基地の移設問題をズルズル先延ばしにしている。

櫻井 今、中国は21世紀はインド洋の時代だと見て、「真珠の首飾り」戦略で、インドを取り囲むようにインド洋上に軍港施設をつくり、包囲する戦略を取っています。それに對して、米国、インドを中心に、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN諸国、もちろん韓国も含めた協力体制ができつつある。こうした世界情勢のなかで、日本の民主党政権はインド洋から自衛隊を撤退させ、代わりにお金をまったくわかっていないと

言わざるを得ません。

城内 たしかに保守であるかどうかは、中国に対する立場でもわかりますね。中国は共産党一党の独裁国家で、チベット、ウイグルなど少数民族や法輪功の人たちへの弾圧、虐待などんでもないことをやっている。それでも意図的に親中姿勢を取るのならまだしも、今の鳩山外交は何を指しているのかわからない。これは最低の外交です。

**人格者の谷垣総裁には
政権奪取の気迫がない**

櫻井 鳩山政権の支持率は急降下し、ついに30%台に落ち

こみました。ところが自民党の支持率はなかなか上がらない。その原因はどこにあると思いますか？

城内 まだ与党の残像のなかで、懐かしき古きよき自民党の時代に浸かったままにいる。自分たちがどこに位置しているのかに気づいていないのだと思います。総選挙の後、国会内の控室を明け渡さないといつて一時ゴネましたが、パフォーマンスと言われても、「控室はもういりません。反省しました。廊下で立ってやります」と潔く言えばよかった。審議拒否も3日間で引つ込めるくらいなら、「証人喚問

しないなら、私たちは議員辞職します」と言って何週間でも座り込みすればいい。そうすれば次第に世論も変わっていったはずだ。

櫻井 自分たちが何故に敗北したのか分析できていないんですね。自民党が自民党でなくなった。結党の精神である自主憲法制定をはじめとする保守的な価値観を何一つ実現してこなかった。何もできなかった政党だから負けたのだという問題意識があまりにも欠落しています。

城内 きちんと総括すると誰が戦犯なのかという話になってしまふので、何となくお互いに傷を舐め合っている気がします。だから活力というか、また天下を取ってやるぞという気迫が感じられない。

櫻井 気迫がないし、戦い方も知りませんね。

城内 谷垣総裁はどちらかというとトリベラルで私とは主張が違います、人格的には非常に素晴らしい人物です。先輩だろうが後輩だろうが、大臣だろうが一般人だろうが同じ目線で話すことのできる、稀な人物です。ただ、自民党全盛期の総理大臣ならその人格でそこそまとめていけた

のでしようが、戦って権力を奪取する側の野党第一党の党首としてはどうか。彼がこの時に総裁になったことは非常に不幸だと思います。

櫻井 谷垣氏が国民にウケないのは、基本ができていないという、その一点に尽きます。国会の代表質問でも、「お答え

発表しましたが、そのなかで谷垣氏には「鳩山政権を倒すという気構えも窺えない」と批判しています。あるパーティーで「尋問の技術を磨いてから国会に出ればよかったとつくづく感じている」と言っていたそうですが、なんと愚かなことでしょう。いくら人



3月16日、衆院本会議場で自民党を離党した鳩山邦夫氏が平沼赳夫氏に接触した。

には満足できませんけれども、次の点に移ります」という発言がありました。満足できないなら、なぜ満足できるまで厳しく詰め寄らないのか。

城内 おっしゃるとおりです。**櫻井** 与謝野馨氏が『文藝春秋』4月号に「新党結成へ腹はくくった」と題した論文を

を掲げて安心して任せられる民主党をつくっていくのかと思っていました。ところが一部の左派系の人たちにふりまわされて、自分で自分の首を絞めてしまっています。

櫻井 国民が求めているものを読み違えていますね。例えば子ども手当についても、調査によつては6割以上が反対している。もちろんお金をもらえるお父さんお母さんはうれいでしょうが、本当に日本の将来は大丈夫なのかと心配している国民は多い。選択的夫婦別姓法案にしても外国人参政権問題にしても、日本国が崩壊してしまう、液状化してしまうという心配の声は想像以上に強いと思います。

城内 つい先日、地元の山奥の集会に出た時、永住外国人の地方参政権と選択的夫婦別姓についてそれぞれ別の方から質問があったんです。私がわかりやすく説明すると、「とんでもない法案だ。みんな反対しよう」と言っていた。彼らが道路など地元の問題だけでなく、国家的な問題に関心を寄せることは、これまであまりなかった。これは大きな変化だと思っています。

櫻井 衆院選で大勝した後の

参院選では与党は必ず負けてきました。民主党は過半数を取れない懸念があるから公明党に接近していますし、公明党も政権与党に入りたくて仕方がない。民主党が政権を取るかなり前のことですが、渡部恒三氏に、当時小沢氏が公明党とは絶対に組まないと明言していることについて問うと、彼はニヤッと笑ってこう言いました。「選挙になればどうにだって変わりますよ」。参院選後、民主党と公明党の連携は十分あります。

城内 ありえますね。

櫻井 自民党が衰退した理由の一つは、公明党との連携にもありました。拓殖大学大学院教授の遠藤浩一氏が、かつて民社党が崩れたのは公明党と組んだからだとの論文を書いていますが、自民党も似たような道を進んできました。仮に民公連携となれば、国民の民主党への期待はさらに落ち込んで、もともとまな保守政党がほしいと思い始めると思います。

城内 だからこそ、自民党でも民主党でもない保守勢力が結集することが大切だと思っています。私の選挙区の静岡7区がよい例です。自民党の

現職と、民主党新人の元アナウンサーに、私がダブルスコアで勝利したことは、まさに有権者が自民党でも民主党でもない受け皿を求めている証拠ではないでしょうか。

3、4年先を見据えて 保守の旗を立てるべき

櫻井 今、自民党の内部から

も新党への動きが出てきています。与謝野氏が自民党に三行半を突きつける論文を発表し、鳩山邦夫氏は新党を目指すと書いて実際に離党しました。平沼氏も新党には意欲満々だと聞きますが、城内さんは浪人中ずっと平沼氏と連携なさってきた。渦中にあるその動きをどう見ていますか。

城内 心配なのは、保守再生ではなくて、保守分裂になってしまうかということですね。最悪のシナリオは、自民党のなかの内部抗争、コップのなかの嵐のような印象を国民に与えてしまうこと。そうならないためにも、保守再生というキーワードで大同団結する。小異を捨てて大同団結できるかどうかです。

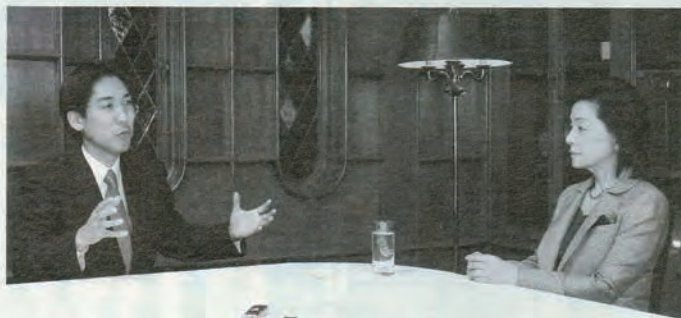
櫻井 国内政策については、与謝野氏の財政再建路線は、

城内さんの考えている成長路線とは隔たりはあるでしょう。でも、小異を捨てて大同につくという意味では、安全保障と外交においては協力できますね。両分野で、今まさに日本の決断が問われているところなんです。まずこの国民の不安を解消するような旗を立てることが大切ですね。

城内 はい。例えば与謝野氏は財政規律派で、平沼氏や私はどちらかというと積極財政派。みんなの党とは行革の部分では水と油です。誰と組むのか、その温度差をどうやって克服するのか。保守再生を目指すならば、民主党から5、6人参加してもらおうくらいの魅力ある政党じゃないといけない。場合によっては、7月の参院選後の政界再編をにらんでジツとしている選択肢もあると思っています。

櫻井 城内さんの同志とも見られている平沼氏は、4月、5月の段階、つまり参院選の前に新党の立ち上げを考えているとおっしゃっています。行動を起こすなら、私も参院選の前がよいのではないかと思います。参院選が終わった後というのは疑問ですね。
城内 民主党は寄り合い所帯

で、なかばバラバラです。数が多いので容易には割れないでしょうが、参議院では社民、国民新党とで辛うじて過半数を取っている。だからこそ参院選で民主と社民・国民新党、民主と公明、あるいは民主とみんなの党を合わせても過半



保守再生へ向けて、城内氏の動向に注目が集まる。

数を取られないようにすることが大事で、そうすればガラガラポンが起こる可能性はあると思うのですが。

櫻井 民主党が割れて、意見を一緒にする保守の人たちがまとまればいいというのは、みんなが思っていることです。

しかし、おそらく民主党は割れないでしょう。今までの自民党を見ていてわかるように、数をもった時には絶対と言ってよいほど、割れない。この間に政権を取り戻すことは不可能です。だからこそ今一番大事なのは、3年先、4年先の日本を見据えて保守らしい旗を立てることです。

城内 保守再生救国連合で戦うということですね。

櫻井 先日、月刊誌の別冊企画で、みんなの党の渡辺喜美氏と対談しました。小沢氏の歴然たる力にしり込みして断わる人が多いなか、渡辺氏は敢然と対談に応じてくれた。

父である渡辺美智雄氏は、客観的に見れば小沢氏に利用され、裏切られた。でも、美智雄氏は最後まで小沢氏を悪く言わなかったそうです。「政治というのは8割の合理性と2割の非合理性だ。好きだ嫌いだこんちくしょうが8割であつてはいけない」、それが父の遺言だということです。

喜美氏に小沢氏から連携の話があったらどうするかと聞くと、彼は「アジェンダ（政策）がすべてです」と言いました。私はその気持ちはとても大事だと思うんです。

つまり、政治を直して日本をよくしていくには、現実をしつかり見て、日本に必要なことなら、好悪を超えて連携する。そこには私情はなるべく挟まないほうがいい。つまり、私利も私欲もできるだけ排除するのがよい。それは行動を起こすタイミングのはかり方についても同様です。

城内 おっしゃる通りに小さな違いには目をつぶって、日本の将来に危機感をもった人たちが集まる。そうでなければ、気迫が国民に伝わらないでしょうね。

櫻井 国際社会の情勢を見ると、日本が左シフトするような傾向が続くことはまさに日本にとって悲劇です。今は玉石混濁でもいいから保守の力を結集していく。これを第一段階とすれば、第二段階としてもう少しふり分けをした第三勢力をつくっていく。杉並区長の山田宏氏らもたしかに保守の旗を掲げましたね。

城内 おっしゃるとおりですね。やるからには勝たなければ意味がない。天下を取らなくてはいいけません。
櫻井 国民は意外に、きちんと見えています。どうぞ力を尽くして頑張ってください。